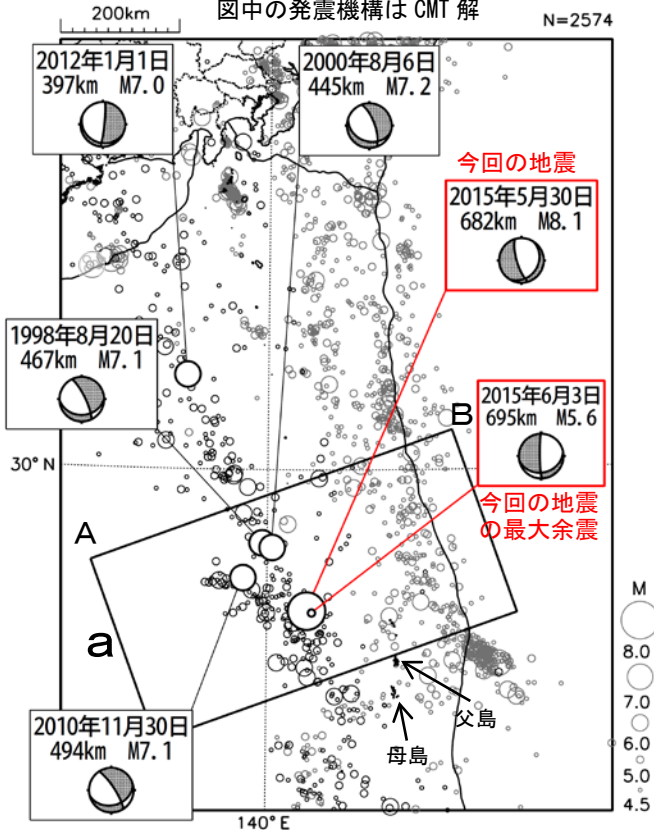


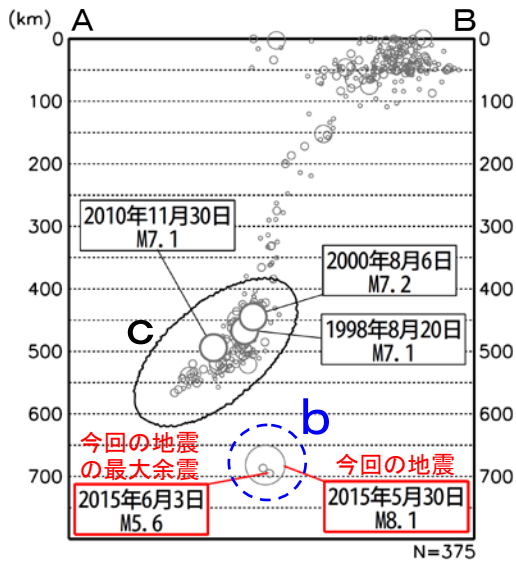
# 5月30日 小笠原諸島西方沖の地震

## 震央分布図

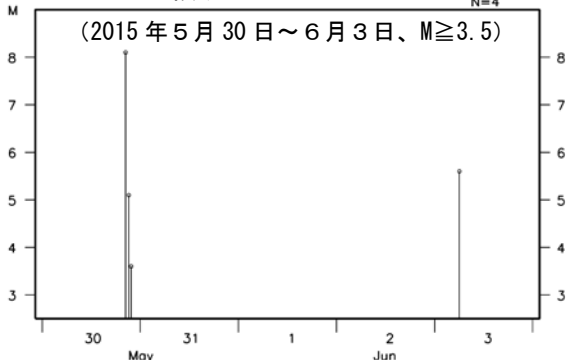
(1997年10月1日～2015年6月3日、  
深さ0～700km、 $M \geq 4.5$ )  
100kmより深い地震を濃く表示  
図中の発震機構はCMT解



領域a内の断面図 (A-B投影)



領域b内のM-T図 (N=4)



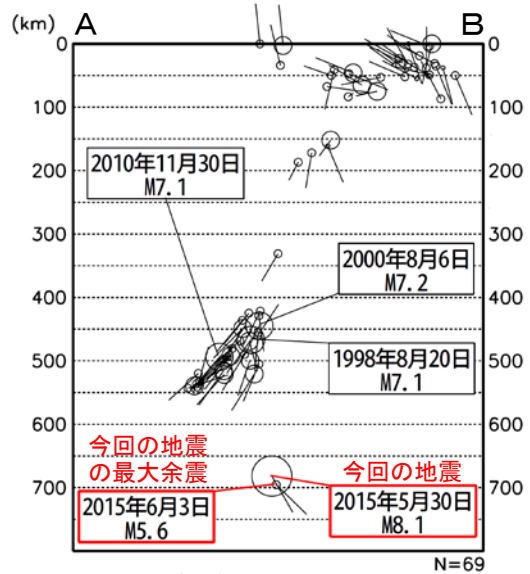
2015年5月30日20時23分に小笠原諸島西方沖の深さ682kmでM8.1の地震(最大震度5強)が発生した。この地震は、太平洋プレート内部で発生した。発震機構(CMT解)は、東西方向に張力軸を持つ型である。この地震により、東京都で地震関連負傷者8件、埼玉県で負傷者3人、神奈川県で負傷者2人等の被害を生じた(総務省消防庁による)。

余震活動は低調である。最大規模の余震は、6月3日06時04分のM5.6の地震(最大震度1)である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)はこれまで地震の発生が見られない領域であった。深さ500km程度(領域c)では、定常的に地震活動が見られ、M7.0以上の地震が3回発生している。領域c内で発生している地震の発震機構(CMT解)は、概ね太平洋プレートが沈み込む方向に圧力軸を持つ型である。

領域a内の断面の圧力軸分布 (A-B投影) (CMT解による)

震源からから伸びる直線は、圧力軸(P軸)の方向を示す



領域c内のM-T図 (N=131)

